

## これからの看護と看護教育などに望みたいこと

弘前大学名誉教授 品川 信 良

次の諸問題について、私見を述べさせていただきます。

### I. これからの看護に望みたいこと

1. 看護婦さんは、患者さんの傍に、もっと居て欲しい。また、いられるようになって欲しい。特に、経験豊かな年長の看護婦さんに、それを強くお願いしたいし、またそれが、可能な看護体制になって欲しい。
2. 「病院看護」の実態、特にその欠点に、目覚めて頂きたい。
3. 患者さんとその家族などへの対応、もっと難しく言うならば、communication skills を身につけて頂きたい。
4. 社会や日常生活における看護（や医療）の位置づけを、もう一度、考え直して頂きたい。

### II. これからの看護教育に望みたいこと

1. 「基礎看護教育」と「専門看護教育」との別を、もっとはっきりさせるべきである。医学教育もそうだが、日本では、両者が混同されすぎている。
2. 資格取得後の「卒後教育」では、専門技術教育を、もっと充実させるべきである。日本の看護の「卒後教育」では、非技術的なことの教育や研修に、重点が置かれすぎている。
3. Communication skills を、もっと身につけさせて頂きたい。
4. 看護や医療と経済、特に物資の節約についても、もっと教えて頂きたい。
5. 社会的、倫理的なことについても、もっと教えて頂きたい。また、この方面の問題について、もっと議論の機会をもつようにして頂

きたい。

### III. 社会全体に望みたいこと

1. ただ「不足」を歎いてばかり居ないで、日本の社会は、「看護婦不足」に対する具体的な対策を、人口動態なども踏まえ、国民的な視野に立って考え、立てるべきである。
2. 看護（や医療）の守備範囲（ないしは責任範囲）が、もう一度、検討されるべきである。特に、患者の「入院条件」の再検討が行われるべきではなからうか。
3. 困ったときだけ「看護（や医療）ほど大切なものはない」などと言ってばかり居ないで、いつかは必ず自分の身にもふりかかる問題の1つとして、看護（や医療）の問題を、社会全体が、もっと真剣に考えるべきである。
4. 病院を新築したり増床したりしようする者に対しては、予め必要なだけの看護婦の養成を、義務づけてはどうか。
5. 文部省と厚生省は、もっと頻繁に、「看護婦問題」について話し合えないものか。
6. 同じようなことは、医師会や看護協会などについても言えよう。
7. 「看護問題」や「看護婦問題」で、頭の切り替えを一番迫られているのは、実は私たち医師であるのかも知れない。また、私たち医師の頭の切り替えを一番妨げているものは、終戦直後さながらの「制度」と、いわゆる「学校医学」や「経済」偏重の傾向である、とも言われている。